



毎月23日は
家庭読書の日
Tamba city library

図書館員がおすすめる

今月の推し本!



一般書

「答えは市役所3階に」 辻堂 ゆめ／著（光文社 2023.1）

コロナ禍によってもたらされた幾つもの「こんなはずじゃなかった」。某市役所には「2020 ころの相談室」が開設され、進学、学業、就職、結婚、出産、仕事…その切実な悩みや知られたくない秘密を持って、高校生、青年、若い母親などが尋ねて来ます。2人のカウンセラーが彼らの本当の姿を推理します。話すことで再び道を開いていく人達、そして、それを見守る相談室の2人のあざやかで、あたたかなミステリー。

「石原洋子の梅干し梅酒梅料理」 石原 洋子／著（主婦と生活社 2022.5）

家庭を持ってから実家の「梅しごと」を見よう見まねで覚えた著者。ゴールデンウィークが過ぎ、新緑が美しくなる頃、今年の梅が出るのはいつ頃か待ち遠しく…。小梅・青梅を梅酒、梅シロップ、コンポートに、黄熟梅を梅干し、梅シロップ、ジャム、みそへと仕込み、その梅を毎日おいしい料理にも使います。写真を大きくふんだんに使ったわかりやすい料理本です。

児童書

「ロボのシルベスターとまほうの小石」

ウィリアム・スタイグ／さく せた ていじ／やく（評論社 2006.2）

夏のある日、シルベスターが見つけた赤い石は、何でも願いを叶えてくれる魔法の小石でした。帰り道でライオンに出合ってしまった彼はとっさに「岩になりたい」と願ってしまったのです。帰らない彼を探して、秋も冬も、両親は悲嘆にくれます。そして、5月のある日、両親は、出かけたイチゴ山で、その赤い小石をみつけて、石になった彼の上に置くやいなや…。

「昆虫少年の夢 オオムラサキ舞う森」たくさんのふしぎ 第302号

草山 万禎／文 足立 隆昭／写真（福音館書店 2010.5）

本名、河合雅雄氏（97歳で逝去）は、県立丹波の森公苑初代名誉苑長です。2005年から「オオムラサキの舞う里山づくり」に取り組んできました。当時、崇広小学校や上久下小学校でもオオムラサキを育てました。7月上旬には、その姿が見られます。



丹波市立中央図書館
（2023年5月）